

在宅療養者とのディグニティセラピーがその周囲の人に持つ意味

— 家族・友人・専門職の語りから —

無藤清子¹⁾、土川稔美¹⁾、原祐子²⁾

1) 訪問看護ステーションしもきたざわ、2) 慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室

<要 旨>

ディグニティセラピー (Dignity Therapy、以下 DT) と生成継承性文書 (Generativity Document、以下 GD) に触れた周囲の人の語りから、本人と周囲の人自身にとっての DT/GD の意味について検討する。当所の利用者等で DT を行い逝去した人の、周囲の人 (家族、友人、専門職) 16 名に協力を得て、本人および周囲の人自身にとっての DT/GD の意味等を尋ねる半構造化面接を実施した。テーマ中心の質的テキスト分析を参考に、演繹的と帰納的を組み合わせたカテゴリー構築のプロセスで分析した。結果として、DT/GD が本人の尊厳感の保持に寄与していることが示された。人生の記録として残る GD のみならず、DT セッションそのものが本人にとって喜びとなり、また、GD が本人の晩年を支えたとの語りも得られた。周囲の人にとっては、自身の人生や介護を振り返り、人生観や死生観、介護観が深まる契機となった。また、本人の人生に思いを巡らせ、本人への理解や敬意の深まりも見られた。さらに、本人が大切にしているものの継承や、本人と周囲の人の人生の共鳴が起こり、本人への認証に繋がり得ることが示された。本人が、周囲の人達からの認証を感じ取る機会があるならば、尊厳感や人生の質を高めることに寄与し得るという点でも、DT/GD の重要な意義の一つとなると考えられる。専門職らは、専門職としてのあり方を捉え直したり、GD をチーム内で共有したりすることによって、本人への心からの敬意がチーム内に伝播すると感じており、本人との対話やケアに GD が役立っていると感じていた。

<キーワード>

ディグニティセラピー、生成継承性文書、在宅療養、尊厳、質的研究

【はじめに】

当訪問看護ステーション (以下、当所) では、2015 年より悪性腫瘍・難病・慢性疾患等在宅療養中の利用者 (以下、本人) と臨床心理士がディグニティセラピー (以下、DT) を実践している^{1),2),6),7)}。

本研究の目的は、本人の家族、友人、関係専門職 (以下、周囲の人) への面接を通じて、DT セッション及び DT で作成される生成継承性文書 (Generativity Document、以下 GD) が、本人にとって、また、周囲の人自身にとって、どのような意味を持つのかを検討することである。DT については、終末期の人の尊厳を保持・強化し、家

族の終末期体験やグリーフケア等にとって意味があることが見出されている^{2),3),4),8)}。本研究の意義は、DT/GD に身近に触れた周囲の人の語りから、上記の点について具体的に把握すること、および DT/GD が周囲の人の人生にとって持つ意味について検討することである。

【方法】

1. 協力者: 当所の利用者等で DT を行い逝去した人 (9 名) の、周囲の人 16 名 (家族 7 名/友人 5 名/専門職 4 名: 医師、看護師、ケアマネジャー、理学療法士各 1 名)、平均年齢 67.7 歳 (SD=13.1)、女性 12 名、男性 4 名である。

2. 調査期間と調査方法：2023年8月～2024年1月、1人あたり約1時間半の半構造的面接を1回実施した。協力者の同意を得て、面接をICレコーダーで録音し、逐語録を作成した。面接は、対面またはオンラインで実施した。

3. 面接ガイド：概要は次の通りである。①本人にとって、DTをしたこと、GDがあることは、どのようなだったと見受けたか。②協力者自身は、本人のDT/GDに触れて、どのようなことを感じたり考えたりしたか。③DTについての意見や助言、実施上の課題等。④属性による問い：DTに同席した家族には同席体験について。専門職にはDT導入の意図について。

4. 分析方法：テーマ中心の質的テキスト分析⁵⁾を参考に、全データについて以下の手順に沿って分析した。①逐語録を読み込んで、意味内容を吟味し、文脈のまとまりから分析単位のセグメントに分け、全セグメントを分析の対象とした。②リサーチクエスチョン（以下、RQ）から導き出したテーマを設定した。③各セグメントの要約を作成し、帰納的に一次的サブカテゴリーを生成した。この際、複数のテーマに関連するセグメントは、複数のテーマに割り当てた。④各テーマ毎に該当セグメントについて、帰納的にサブカテゴリーを生成した。⑤④までの分析を終えた一部のデータを用いて、テーマとサブテーマの適用性を確認し、サブテーマの定義を確定した。⑥そのカテゴリーシステムに基づき全セグメントのサブカテゴリーを生成し、共通性と差異性を比較しながら精緻化した。⑦サブカテゴリーから帰納的にカテゴリーを構築した。⑧カテゴリーベースの分析を行った。この全過程において研究者間で持続的に比較検討し、協議しながら、合意を形成した。

5. 倫理的配慮：当所の母体である認定NPOホームケアエクスペーツ協会の倫理委員会の承認を得て実施した。協力者には、研究の主旨や方法、研究参加と撤回の自由、匿名性の保持等について書面及び口頭で説明し、文書による同意を得た。

註：DTの手順は次の通りである。当所の訪問スタッフがDTセラピスト（以下、DTTh）と打ち合わせ、本人にDTを勧める→DTThが訪問に同行し、説明→DTをすることを本人が決定→DTを開始し、DTの質問（これまでの人生で大切にしていること、大切な人たちに伝えておきたいこと等）を主に用い、数回の面接を実施→DTThが逐語録からGD案を編集→本人の編集を経て完成→GDは、本人の手元と、本人が希望する大切な人達や関係専門職に配布・回覧される。

【結果と考察】

1. RQから導き出した5つのテーマは表1の通りである。

表1 RQから導き出した5つのテーマ

1 周囲の人から見た本人にとってのDT/GDの意味
2 DT/GDに触れたことの周囲の人自身にとっての意味
3 専門職としての周囲の人自身にとってのDT/GDの意味
4 DT/GDに対する意見（DTの課題や普及に関する意見）
5 GDの活用のされ方（主に本人や家族による活用）

総セグメント数は560（テーマ1：67、テーマ2：274、テーマ3：80、テーマ4：127、テーマ5：12）となった。本報告では、主な研究テーマであるテーマ1～3の421セグメントを分析対象とし、結果を示す。

2. 各テーマ下の演繹的なサブテーマの定義およびサブテーマ毎のカテゴリー数およびサブカテゴリー数は、表2の通りである。

3. テーマ1「周囲の人から見た本人にとってのDT/GDの意味」（表3）

(1) DTセッション自体の喜びと楽しみ：周囲の人は、本人がDTセッションを喜び、楽しみ、心待ちにしている様子や本人の生き生きとした姿を見て取り、DTによって生きる気力が湧いてきた様子を捉えていた。

表2 各テーマ下のサブテーマ設定の基準とカテゴリー数・サブカテゴリー数

テーマ	本人の体験に近い視点	協力者自身の体験に立脚した視点	DT/GD から見受けたり感じたりしたこと	DT/GD の持つ意味についての考察
1 周囲の人から見た本人にとってのDT/GDの意味	本人にとってのDT/GDの意味 表3: 8C/28SC*	———	DT中およびDT後の本人の様子や変化 表3: 5C/9SC	GDが果たした役割 表3: 3C/8SC
2 DT/GDに触れたことの周囲の人自身にとっての意味	本人との関係におけるDT/GDの意味 表4: 7C/29SC	自身の人生にとってのDT/GDの意味 表5: 19C/68SC	GDについての感想 表6: 5C/22SC	DT/GDについての考察 表7: 9SC/26SC
3 専門職としての周囲の人自身にとってのDT/GDの意味	DTの導入目的・導入時の工夫やDTを勧めたい人 表8: 5C/17SC	専門職としての自身のあり方にとっての意味 表8: 4C/9SC	———	本人とチームにとっての意味 表8: 4C/22SC

*カテゴリー名・サブカテゴリー名を参照する表、およびC:カテゴリー数、SC:サブカテゴリー数を示す。

(2) DT/GD で思いや考えを言語化して、自分ら

しさが保たれる: 本人は、DTで人生を振り返り、一人では思い出さないような深いところまで思い出したり、自分が大切にしていることを言い表す言葉を探し当てたりすることで、徐々に思いがまとまっていく様子が捉えられていた。また、「こういう人間でありたいということが表現された」「自分は〇〇(本人の名前)だ、と感じられた」等の語りからも、病いがあっても本人らしさの中核が保たれ、病前からの自己の連続性が本人に感じられていたと考えられる。他方、「GDにある本人らしさによって家族も友人も救われる」との語りからは、周囲の人にとってもGDが支えとなっていると考えられる。

(3) DT/GD で大切なことを言語化して、大切な

人に伝える: DT/GDを通じて、本人は日頃は表現しないことや最も伝えたかったことを言語化し、大切な人に伝えることができたことに達成感を感じていた他、家族や周囲の人との関係性が穏やかになったとの変化も捉えられていた。これは同時に、伝えられる側の周囲の人にとっても喜びとなっていた。

(4) 本人の尊厳感を支えるもの: (1)~(3)の過程

は、本人の尊厳感を構成し、守ることに寄与すると考えられる。本人がDT/GDによって「思い残すことはないとの境地」や「生きて

きた意味があるとの感覚」を得た様子からも、尊厳感の深まりがうかがえる。なお、DTをするという本人の意思決定やGDの編集に本人が主体的に関わり、本人の意向が大切に実現されるDTの枠組み自体も、本人の尊厳感を補強していると考えられる。

4. テーマ2「DT/GDに触れたことの周囲の人自身にとっての意味」

周囲の人にとって、DT/GDに触れる経験は、①本人との関係を振り返り、本人の人生に思いを巡らせて、本人への理解や敬意を深めていた。また、本人をケアする家族に対しても理解や敬意の深まりが見られた(表4)。また、②自身の介護体験や人生そのものを振り返り、人生観や死生観、介護観等を捉え直す契機となっていた。また、GDを通じて本人との間で共鳴が生じたり、本人にとって大切なものを継承したりしていた。自身が人生で大切にしているものや支えとなっているものを捉え直し、自身の現在や今後の自身の生き方についての願いや希望が意識されていた(表5)。加えて、③GDを読むと心が動く、あるいは本人がありありと感じられる等の感想(「本人の息吹を感じた」「崇高さを感じる」「本人のありのままがよく表れている」等)(表6)、④DT/GDに関する考察(「DT/GDは本人と残される人とを繋ぐ」「DT/GDで自分の心を表現することが、心穏やかに死に赴く一助となる」等)(表7)が示された。

5. GDが本人の人生と周囲の人の人生の関わり合いにもたらす意味

- (1) **本人のGDや晩年の生き方が、周囲の人の人生にもたらす意味**：GDを介して本人が大切にしていたことを継承している実感や、本人から継承したものを自分の人生に位置付けたいという思いが語られた。また、GDを通じての継承に限らず、GD作成後の晩年における本人のあり様や最期まで生ききったと感じられたことも周囲の人に多くのものをもたらしていた。具体的には、本人の死に至る過程を見習いたいとの思いや、人生観や死生観の深まり、自身の現在の年代ならではの課題や今後の生き方の見通しについても語られていた。
- (2) **生成継承性と遺産としてのGD**：GDは、「生きた証」「人生の記録」と本人が感じていたとの語りが得られた。また、「GDが読まれることで、何年経っても本人が生き続ける」という語りのように、本人がありありと感じられるだけでなく、GDは時を超えて残り、「家族の歴史」となる。さらに、「本人、本人の家族、社会にとって貴重な本人の考えが失われずにとどまる」との周囲の人の考察も見られた。本人が「自分の人生を伝えることで人の役に立ちたい」と思っていることも感じ取られていた。こうして、GDが継承されて遺産となることは、本人の尊厳感を守り、存命中の本人の大きな支えとなっていたと考えられる。
- (3) **本人の人生と自身の人生との共鳴**：DT/GDは、周囲の人が、本人の人生を振り返り、本人が人生でどのようなことに意味を見出していたかを捉え直す契機ともなっていた。例えば、「GDに書かれている本人の人生での志

向性と自身の人生での志向性に通じる面があることに気づいた」「自分の存在を支えているものに触れている点で、本人のDTの過程と自身の人生での体験が響き合った」「本人がGDでありのままの自分を伝えた姿から、今後の自分の生き方を見直した」等の語りに表れているように、本人が価値を見出していることに、周囲の人自身の人生経験が響いて心動かされ、思いや考えが活性化しながら、今後の生き方への願いや方向性が捉え直されていた。このような、人生全般についての理解に関わる共鳴⁹⁾は、本人への認証に繋がり得ると考えられる。本人が、このような周囲の人達からの認証を感じ取る機会があるならば、尊厳感や人生の質を高めることに寄与し得るという点で、DT/GDの重要な意義の一つとなると考えられる。

6. テーマ3「専門職としての周囲の人自身にとってのDT/GDの意味」（表8）

- (1) **ケアへの活用**：サービスや現状に葛藤を抱えている本人が、「DT/GDによって思いがまとまり」「スタッフの話に耳を貸してくれるようになった」等、本人と専門職との関係の変化が捉えられていた。また、GDを通じて「本人が自分の思いや希望を伝えやすくなり」、チームの「本人への理解や敬意が深まった」。そして「本人との対話の素材にする」等、チームがGDをケアに活かしていることが示された。また、DT/GDによる様々な気づきが、「他の利用者への見方や関わり方に活かされた」との語りも見られた。

DTを勧めたい人については、「誰にとっても必要なもの」「死に向かう心づもりを始めている人」「自分の人生について溢れるよ

うに話している人」「現状に葛藤を抱えている人」等が挙げられた。

- (2) 専門職としてのあり方にとっての意味：
DT/GDによって、「本人の希望や思いが何よりも大切だと再認識した」「初心に返って本人と向き合う」等の専門職としてのあり方の捉え直しが生じていた。また、「人生の深みや広がりも含め、今ここにいる本人をもっと理解しようとするようになった」「心からの敬意が湧いた」とも語られ、これまでの歴史も含めて今ここにいる本人、こういう自分でありたいという希望を抱いている本人を、全人的な存在として捉えていると考えられる。
- (3) チームのあり方や方向性にとっての意味：
GDをチーム内の専門職で共有することによって、本人への「心からの敬意」が「チーム内に伝播する」と語られた。また、GDによって「その人となりが見えてくる」「チームの本人理解が深まる」「本人の望む人生のあり方こそが大事ということが腑に落ちた」との語りも見られた。GDが利用者への見方の専門職間の相互理解にも寄与して、多職種が協働するための基盤になり得ると考えられる。また、「他の職種とは専門性の異なるDT/Thがチームにいることに意味がある」との語りも見られた。また、GDによって本人の希望や願いへの理解がより一層深まることから、「DTはACPそのもの」との語りも見られ、ACPにDT/GDを活用する可能性が示唆された。

今後、DTの実施および展開上の課題（テーマ4、5）について考察していく計画である。

謝辞：本研究にご協力くださった皆様に、心より感謝申し上げます。

【文献】

- 1) Chochinov, H.M. (2012) Dignity Therapy: Final Words for Final Days, First Edition. Oxford Univ Press. 小森康永・奥野光(訳)(2013)ディグニティセラピー 最後の言葉、最後の日々. 北大路書房.
- 2) Chochinov, H.M. et al. (2012) Dignity therapy: A feasibility study of elders in long-term care. Palliative and Supportive Care, 10, 3-15.
- 3) Goddard, C. et al. (2013) Dignity Therapy for older people in care homes: a qualitative study of the views of residents and recipients of 'generativity' documents. Journal of Advanced Nursing, 69(1):122-32.
- 4) 小森康永・Chochinov, H.M. (2011) ディグニティセラピーのすすめ. 金剛出版.
- 5) Kuckartz, U. (2014) Qualitative text analysis: a guide to methods, practice & using software, SAGE Publications. 佐藤郁也(訳)(2018)質的テキスト分析法: 基本原理・分析技法・ソフトウェア. 新曜社.
- 6) 無藤清子(2019)在宅医療における支援としてのディグニティセラピー: 訪問看護ステーションにおける臨床心理士の実践から. 家族心理学年報, 37, 119-131.
- 7) 無藤清子・土川稔美・酒井忠昭(2019)神経変性疾患で在宅療養中の人と家族との協働的実践としてのディグニティセラピー. 家族療法研究, 36(3), 24-30.
- 8) 洲濱良子ほか(2021)在宅終末期がん患者へ行うディグニティセラピーが家族員へ及ぼす影響. がん看護, 26(1), 79-84.
- 9) White, M. (2007) Maps of Narrative Practice. Norton. 小森康永・奥野光(訳)(2009). ナラティブ実践地図. 金剛出版

表3 テーマ1「周囲の人から見た本人にとってのDT/GDの意味」

サブ テーマ	カテゴリー	サブカテゴリー
本人 にと つ て の D T / G D の 意 味	DT/GDが存命中の本人の喜びになった	DTセッションとGD完成を、楽しみにしていた 病氣のために思うように話せなくてもDTの時間を喜んでいた 本人が繰り返しGDを読んで満足していた 死が近づいている中でも最高に幸せに生きたと思う
	DTセッション自体に意味を感じられた	DTの時間を心待ちにしていた DTセッション中、笑顔で目が輝き、楽しそうだった DTセッション中に、本人・同席家族・専門職の皆が結びついた不思議な体験を共にして、幸せだった セッション中、本人の思い通りに事を運べたことが、本人と皆の喜びとなった
	本人が大切にしていることを表現・言語化できた	聞いてほしいことを聞いてもらえて、楽しかっただろう 本人が最も伝えたかったことを表現できただろう DTによって掘り下げて思う存分表現できて満足していただろう いつも意識的にものを考えてきた人なので、それを言語化できてよかった 自分はこういう人間でありたいということが表現されて、安らぎや希望になっただろう 日頃は表現しなかったことを表現できて、達成感があつただろう 日頃は表現しなかった面を、信頼する専門職の前で表現したのだろう
	DTで自分の人生を振り返ることができた	セラピストとのやりとりで、自分ひとりでは思い出せなかった深いところまで思い出して語ることができた 振り返って、自分の人生そのものを見ることが本人にとってよかった 自分の生きてきた道をまとめるだけでなく、信仰生活を振り返ったことが信仰告白に結びついたようだった
	病いがあっても自分らしさが保たれた	病いによる不自由さがあっても、自分らしくいた
	GDによって大切な人たちに思いを伝えられた	本人の伝えたいことがGDに集約されている 日頃はなかなか表現できない思いを伝えられた 忘れられたくない大切なことを、GDに書き残した 家族への感謝の思いを伝えられた 生前葬で渡したかった友人たちにGDを渡すことができた GDによって周囲の人たちに自分が深く理解される感覚が得られた GDで時々思い出してもらえるのを、亡くなった本人も喜んでいと思う
	DT/GDによって、生きてきた意味があると感じられた	生きてきた意味が感じられ、GDによってそれを周囲の人たちに知ってもらえることにも満足しただろう
	DT/GDによって、思い残すことはないとの境地に達した	死を意識しながらも、思い残すことはないとの境地に達した
のD T 本 人 中 の お 様 よ 子 び や D 変 化 後	DTをすることを自ら選択した	自分を支えてくれる専門職たちとの信頼関係の中で安心してDTをすることにした 差し迫ってはいないが死を意識する中でDTへの関心が高まった DTについて書かれたものを読んで、元々関心を持っていた
	DTによって生きる気力が湧いた	DTでじっくりと話を聴いてもらえることで癒されていた 活動性が増した
	DTによって、徐々に自分の思いがまとまった	思い出そうとして繰り返し語るうちに、話が飛ばなくなり思いがまとまってきた
	DTによって今を生きるという感覚が強まった	DTによって、とりとめなかった話の時系列が整い、「今」の自分に目が向くようになった DTによって「今」に目が向くようになった
	家族や周囲の人との関係に変化が見られた	家族への厳しい言動が穏やかになった
G D が 果 た し た 役 割	GDが逝去までの本人の支えとなった	元気だった頃からの自分の連続性を感じることができた DT後の体調が悪い時にも一喜一憂しない気持ちでいられた 自分の人生を振り返り、周りの人と話すきっかけとなった 得意そうに、GDを人に見せたり渡したりしていた
	GDに人生の記録が残る	周囲の人に対して人生の記録を残すことができる GDは本人の人生の凝縮で、本人の分身となる 記録としてGDに自分の思いが残ることで、多くの人に役立ててもらえることが本人の望みだろう
	GDによって本人の考えが継承される	本人が大切にしていることが後の世代に継承される

表 4 テーマ 2「DT/GD に触れたことの周囲の人自身にとっての意味」
 —サブテーマ＜本人との関係における DT/GD の意味＞

カテゴリー	サブカテゴリー
本人との関係を振り返った	本人とのエピソードをありありと思い返した
	本人とは信頼し合っている関係だった
	本人とは対等な関係だった
	本人に助けてもらった
	本人は自分が頑張っていることを喜んでいた
	本人とDT以前よりも仲良くなった
本人の人生に思いを巡らせた	本人のコミュニティの中でのあり方を振り返った
	闘病を生き抜いた経過を振り返り、運命を感じた
	本人が死に向けて準備して、覚悟していた姿に感服した
	苦労した時期もあったが、幸せな晩年を過ごしたと感じた
	本人の生ききった人生に感服した
	本人の生ききった人生の終え方を飛行機の着陸に見立て、いろいろなことがあったが、幸せな人生だったと思った
本人の人生に思いを巡らせ、本人の視点に立って捉え直した	本人と本人の家族の关系到思いを巡らせた
	本人が人生で意味を感じたり、求めたりしていることを捉え直した
本人がDTをして良かったと思う	共に生活していた当時の本人を、改めて本人の視点に立って捉え直した
	DTを体調や気力、認知機能が安定している時期にできて良かった
	DT/GDが本人と自身にとって喜びとなった
本人への理解や敬意が深まった	GD が逝去後に本人を思い出す手がかりとなった
	本人への心からの敬意が深まった
	本人から既に聞いていたことの意味を、深く理解した
	本人から聞いていなかったことを知り、深く理解した
	本人の病いとの向き合い方について振り返り、敬意が深まった
	本人が自ら選択して望み通りの最期を過ごしたことに、敬意を深めた
	本人と家族との関係への理解や敬意が深まった
	本人を支える家族とコミュニティへの敬意をもった
本人の家族への理解や敬意が深まった	これからGDを読む人にも本人への敬意をもって欲しい
	本人を慈しむ家族の姿に感動を覚えた
	本人の家族への理解が深まり厚みが増した
DTに同席した家族と本人が共にした体験によって支えられている	DTセッション中にスピリチュアルな体験をしたことが逝去後の今も支えとなっている

表5 テーマ2「DT/GDに触れたことの周囲の人自身にとっての意味」
ーサブテーマ＜自身の人生にとってのDT/GDの意味＞

カテゴリー	サブカテゴリー
自身の介護を振り返り、介護体験を捉え直した	自身の介護を振り返り、満足している
	自身の介護を振り返り、心残りを感している
	自身の介護を振り返り、社会的視点から考えた
	介護の仕方に気づいて工夫する転換点があった
	介護に必要な事には、その都度対応できたので、大変だったという思いはない
	今思うと、在宅介護はそれなりの覚悟がないとできないことだと思う
	在宅療養を支えてくれた専門職に感謝している
	終末期医療は見通しを与えてくれるので、前向きでいられた
	自身の介護について振り返り、見送るまでの時間を贈り物と感じた
	病いが進んだ時期でも穏やかな幸せがあると感じ、それを忘れないようにしようと思った
	本人への感謝から在宅療養を決断した
	在宅で亡くなりたいたいの本人の願いを叶えられた
自身の介護を振り返り、介護観を捉え直した	自身が大切にしていた介護観を捉え直した
	周囲の支えを得ながら“できる介護”を無理なくするようにした
	無理のない介護をすることが本人の安心に繋がる
	入院中にも本人が家感覚で過ごせるようにケアしていた
自身の介護を振り返り、支えとなっているものを捉え直した	自身の介護への満足感が、現在の自身の生活の支えになっている
自身の介護を振り返り、死生観を捉え直した	本人の看取りから、人間の生命の終わり方を学んだ
	介護の過程を振り返り、逝く人の思いや選択について捉え直した
本人が死に向かう過程から自身の死生観が深まった	死が身近に感じられたことで、心の整理や覚悟、心構えができた
	人間は緩やかに確実に死に向かっているという理解が深まった
	介護する人とされる人が、共にああ良かったと思えるような最期を迎えたい
	在宅介護で頻繁に看られたので、死が身近になっていった
自身の介護を振り返り、今後の生き方について考えている	本人との約束を果たし、自分がやってきたことの集大成ができたので、これから自分の生き方をしていく
	自身の介護経験が今後の自分の人生に役立つ
自身の介護を振り返り、本人と自身の繋がりを捉え直した	本人が感じる事が私が感じる事だった
	被介護者から、あなたが居るから何も不安ないと言われたことで、GDと同じものをもらったと感じた
	本人は自身と一緒にいたくて在宅療養を望んだ
自身の介護を振り返り、本人と周りの人との繋がりを捉え直した	被介護者の明るさが介護する人との関係を支える
	訪問スタッフと過ごす楽しい時間が本人と自身の気分転換になった
	本人は周囲に感謝し、それに応えてくれる人たちに恵まれていた
自身の人生を振り返り、人生観を捉え直した	現在の自身の活動の意味を捉え直した
	自身の宗教的関心の振り返った
	自身や家族の人生における信仰の意味を捉え直した
	自身の人生を振り返ることで、今まで気づいていなかったことに気づき、自分の世界が膨らむ
自身の人生を振り返り、支えとなっているものを捉え直した	人生のターニングポイントで、人との出会いに恵まれてきた
	その時気づかなかったことに気づき、思い出が膨らんだ
	忙しきや次のミッションがあることが辛い時期の自身を支えた
	人との出会いに感謝して、前向きに生きていられる
自身の人生を振り返り、今の年代ならではの感じ方で捉え直した	自身の人生を振り返って気づいたことが、今の年代になってGDに出会った時に胸に落ちた
	黄昏時にある現在ならではの自分の内面や感じ方に向き合っている
本人の人生と自身の人生を振り返り、捉え直した	本人と共に生きていた自身の人生を振り返り、捉え直した
	本人と共に世話になった人をケアした経験から、自身の介護観が築かれた
	本人の人生の振り返りから、自身を形成しているものを再認識した
	本人と宗教的関心を共有していた
	自身が本人を支えざるを得ない状況ならば、前向きにやっていこうと思った
本人と本人の家族の人生と自身の人生を振り返り、捉え直した	介護が終わった今も、本人がいるように感じられる
	自身の家族の早逝を振り返り、捉え直した
本人の人生と自身の人生が共鳴した	GDに書かれている人生の志向性と自身の志向性に似た面があることに気づいた
	自分の存在を支えているものに触れている点で、本人のDTの過程と自身の人生での体験が響き合った
	本人がGDでありのままの自分を伝えた姿から、今後の自分の生き方を見直した
	本人の晩年の生き方から、自身の老後の過ごし方を考えた
本人と本人の家族の人生と自身の人生が共鳴した	本人と本人の家族の生き方から、自身の今後の生き方への願いが満いた
本人が大切にしていたことの継承を実感している	現在の人生段階で、本人からの継承の実感が深まっている
	本人と同じ活動をする中で、本人からの継承の実感が深まっている
	GDによって本人やその上の世代から大切なものを継承している
	本人から継承したことが自分に身についていることに感謝している
	本人からいろいろな人との縁を受け継いだことに感謝している
本人が大切にしていたことを継承したい	本人から継承していることを自分の人生に位置付たい
	GDによって本人が大切にしていたことを継承していこうという思いが強まった
本人が最期まで生ききった過程を見習いたい	本人と同じような“やり切った人生”にしたい
	本人のような死に方をしたいと思う
	本人のように在宅で死を迎えたい
GDは家族や周囲の人を支える	GDに本人の感謝が残されていることで、支えられている
	本人逝去後も家族が幸せでいられる
	GDにある本人らしきによって家族も友人も救われる
	自身の家族にDTをしたかったと思う

表 6 テーマ 2「DT/GD に触れたことの周囲の人自身にとっての意味」－サブテーマ＜DT/GD についての感想＞

カテゴリー	サブカテゴリー
GDを読むと心が動く	心が湧いた
	心に響いてきた
	本人の息吹を感じた
	懐かしい
	崇高さを感じる
	燃えたぎるような思いがした
GDに本人がありありと感じられる	GDに本人のありのままがよく表れている
	GDを読むと、本人の思いが蘇り、このように生きていたなあと感じる
	GDに作品の写真や短歌もあるので、本人をありありと感じる
	話し言葉で書かれているGDから、本人らしさを再認識した
	本人の話し言葉で書かれているので、目の前にいるように新鮮に感じる
	GDの題名が本人らしくて感心した
良いものを残してもらった	GDによって本人の思いや考えが残されて嬉しい
DT/GDへの良い反響があった	周りの人たちがDTに関心をもった
	周りの人たちがGDを通して本人を懐かしんだ
	周りの人に本人の良さをわかってもらえた
	周りの人たちが死に向き合う本人の姿に感動した
	思いがけない人からも手紙が来て、良い仲間だなと思った
時期によってGDの受けとめが変化した	存命中は死の準備と感じられて抵抗があったが、逝去後は受けとめられるようになった
	作成当初は良いものができたと喜んだだけだったが、再読すると辛さや本人への思いが溢れて涙が出た
	GDを再読して、本人とのわだかまりが解けた
	GDへの感想は一貫して良かった

表 7 テーマ 2「DT/GD に触れたことの周囲の人自身にとっての意味」－サブテーマ＜DT/GD についての考察＞

カテゴリー	サブカテゴリー
DTセッション自体に意味がある	DTセッション中の本人の言動に元気な頃の姿が現れた DTに同席した家族が、本人や専門職と共にしたDTセッションに意味を感じた
GDには本人の思いや考えが言語化されている	GDには本人の思いが全て込められている
	本人の言葉から人となりを知ることができる
	GDの言葉は紛れもない本人の意思によるものなので、確かにこういう人だったと周囲に理解され得る
	日頃は表現しないことをGDで伝えられる
DT/GDによって本人の考えや思いがまとまる	DT/GDによって、本人の考えや思いが、思いがけない方向でまとまって定着する
DTによって深い部分にある本人の思いや考えが引き出される	普段は語っていなかった素の部分を読れた
	生涯にわたってどう生きてきたかを体系的に話せた
	高齢で自分で書くのが難しい時に、DTで引き出してもらえて良かった
DT/GDは、本人が死に向かう過程を支える	DTはACPと同等の意味を持つ
	DT/GDで自分の心を表現することが、心穏やかに死に赴く一助となる
GDによって本人や家族の歴史が残される	GDは本人の生きた証になる
	GDが読まれることで、何年経っても本人が生き続ける
	GDによって何代経っても家の歴史が具体的に伝わる
	GDによって誰しも自分の歴史を残すことができる
	GDによって、本人の言葉が歴史の中に厳然として残る
GDによって本人が大切にしていたことが継承される	GDによって、本人が大切にしているものが継承される
	自身は本人から継承しているが、さらに継承されるかは次の世代次第だと思う
DT/GDは本人と残される人を繋ぐ	DT/GDは死に向かう本人と周囲の人の共同作業を支える
	DT/GDで聞いておきたいことを聞けたことで、逝く人と残される人が繋がった
	DT/GDを通じて、人との別れに折り合いをつけることができる
DTの本質を考える	GDには“このように生きたい”という本人の深い渴望が表れている
	DTによって、死を意識しながらも気力が湧き、こういう人間でありたいと願い、自分自身を感じられることがディグニティだと思う
	GDには、本人、本人の家族、社会にとって貴重な本人の考えが失われずに留まる
	DT/GDの意味を、自身の人間観・社会観・死生観から捉え直す

表 8 テーマ 3「専門職としての周囲の人自身にとっての DT/GD の意味」

サブ テーマ	カテゴリー	サブカテゴリー
D T の 導 入 目 的 お よ び 導 入 時 の 工 夫 や	DTは誰にとっても必要だと思う	言いたいことが強くある人に限らず誰もがGDを作れるとよい
	DTを衰えや身近に死を感じている人に勧めたい	サービスを受けている現状に葛藤を抱えている人に勧めたい
		死に向かう心づもりをし始めている人に勧めたい
		生きる気力が低下している人に勧めたい
	DTを勧める際には工夫やタイミングを考慮する	契約時からDTがあることを知らせておく
		写真を使うフォトブック的なGDにすると気軽に勧めやすい
		それぞれの心情に配慮しながら勧める必要がある
		体力や気力にゆとりのある早めのタイミングで勧めると良い
		ゆっくり話をできる種類のサービス（入浴や散歩等）が入っている人には勧めやすい
		病状からDTは無理ではないかと思っていでも、良いDTができた人がいた
	人生について話したり、振り返ったりしたい人に勧めたい	自分の人生についてまとめたが、加齢や病状によって難しくなっている人に勧めたい
		自分の人生についてあふれるように話している人に勧めたい
		自分の人生を伝えることで、人の役に立ちたいと思っている人に勧めたい
		生前葬にGDを使いたいと思っている人に勧めたい
あ り 専 門 職 と し て の 自 身 の 意 味	DTが本人の意思が尊重される場であることを貴重に感じた	人生についてまとめて、人に伝えたいと思っている人に勧めたい
		人生についてまとめて、人に伝えたいと思っている人に勧めたい
	DTを知ったことが専門職としての今後にとって良かった	DT/GDで話を聴いてもらって思いをまとめることが、次に向けたステップになると考えた
		本人がケアについてどのような希望を持っているのかの本音を知りたいと考えた
	GDによって、本人と本人の家族への理解が深まり、専門職としてのあり方に活かされた	GDの編集過程において本人の希望や意思が実現されることで、本人が尊重されていると感じていた
		一人の人の人生を一冊の本にすることでその人となりが見えてくることが興味深い
		より多くの人がDTができるように今後関わっていききたい
		GDを読み返すことで、専門職が本人と向き合い直すきっかけとなる
	自身が大切にしている専門職としてのあり方について深く理解した	本人と本人の家族の間病中の姿を振り返って理解を深めた
		本人と家族の関係の理解の深まりが、他の利用者と家族への見方や関わり方に活かされた
		DT/GDによって、本人の希望や思いが何よりも大切だと再認識し、専門職としての視野が広がった
		自身が大切にしている本人への深い理解の探求を現状の中で実現することの難しさを感じる
本 人 と チ ー ム に と つ て の 意 味	DT/GDによって、本人と専門職との関係が変わる	本人と家族の立場の違いから起こることについて、GDから教えられて腑に落ちた
		DT/GDによって、本人の望む人生のあり方が腑に落ちて、完璧なケアにとらわれなくなった
		DT/GDによって、人生の深みや広がりも含めて、今ここにいる本人をもっと理解しようとするようになる
		DT/GDによって、本人への敬意がチーム内に伝播する
		DT/GDによって本人が変化することによって、専門職が救われる
		GDによって、家族の本人への理解が深まる
		GDは、専門職が初心に返って本人と向き合う姿勢を取り戻すのを支える
		専門職の話に耳を貸してくれるようになり、サービスが入りやすくなった
		専門職の本人への関わり方や姿勢が変化した
	DT/GDをケアに活かす	本人が自分の思いや希望を伝えやすくなり、チームの本人理解も深まった
		本人の溢れるような話し方が変化した、専門職側のストレスが減った
		DT/GDが本人を理解し、敬意を深めるためのツールとなる
		DT/GDによって、本人が心を開いて、もっと希望を語りやすくなる
		DTはACPとして活用できる
	DTセラピストがチームにいることには意味がある	GDについての感想を本人に伝えることで、本人はチームが自分のことを見てくれていると感じる
		今ここにいる本人をその歴史も含め、より具体的にチームが理解していくために、GDを活用したい
		DTセラピストに話すこと自体が、本人にとってセラピーになり得ると感じる
		DTセラピストを含む多職種で協働することで、各々の専門性が活かされる
		本人の内面に向き合うDTセラピストがいることで、チームにとって視点の転換につながる場合がある
		本人は、他の専門職とは異なる役割をDTセラピストに求めていると感じる
GDを本人との対話に活かすことができる		DTセラピストを含む多職種で協働することで、各々の専門性が活かされる
		本人の内面に向き合うDTセラピストがいることで、本人とチームにとって視点の転換につながる場合がある
		GDは本人との会話の素材やきっかけとなる